

## 副詞 *personnellement* と前置詞句 *en personne* の意味構造と機能

宮腰 駿 (筑波大学大学院博士前期課程)

本発表は副詞 *personnellement* (以下 PER) と前置詞句 *en personne* (以下 EP) が持つ構文的・意味的な同一性と差異を考察することを目的とする。これまでの先行研究 (Molinier et Levrier 2000, Molinier 2003, Schnedecker 2016) によって、PER と EP が持つ同一性と差異はある程度明らかになっている。例えば、顕著な構文的な差異としては、以下の例が示すように、PER が離接詞として文頭に生起できるのに対して、EP は文頭に生起することが難しいことが指摘されている。しかし、EP が文頭に置きにくい理由は明らかになっていない。

- a. *Personnellement*, je suis inquiet. (Molinier et Levrier 2000, p.72)
- b. \**En personne*, je suis inquiet. (Schnedecker 2016, p.160)

また、PER と EP が示しうる意味については、以下の例のような形で同義関係は指摘されているが、この2つの形式の差異はそれほど明らかになっていない。また両形式の意味的多様性に関する考察も不足している。

Le ministre *personnellement* / *en personne* a reçu Luc. (Molinier 2003, p.368-369)

本発表では、まず2つの形式に関する主たる先行研究の批判的考察を行い、問題の所在を明らかにする。次に用例の観察を行い、両形式の意味的な多様性を概観する。そして、インフォーマントへの調査に基づき、PER と EP の同一性と差異について観察と分析を行う。その際に特に論点としてとりあげるのは、①共起する動詞との意味的關係、②構文論的な差異、③ *personne* との關係という3つの問題である。①については Schnedecker (2016) が EP の記述において用いている「委任 *délégation*」および「非習慣的行為 *action inhabituelle*」という概念に着目し、これらの概念についてさらなる分析が可能であることを示す。②については「EP がなぜ文頭位置に置きにくいのか」という問題について「述定關係のまとまり」という観点から分析案を提案する。そして、③については Lebaud (2014) による名詞 *personne* の研究を参照し、EP と PER の差異と同一性について語彙的特性の観点から議論を行う。そして、両形式の意味的多様性の背景に *personne* が持つ語彙的特性が反映していることを明らかにする。また2つの形式の意味的差異についても *personne* の語彙的特性からの解釈を試みる。そして、最後に、en+名詞型前置詞句と-ment型副詞の対立 (ex. *en réalité* vs *réellement*) における EP と PER の位置づけについて議論を行い、今後の研究課題について検討する。